

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】平成27年7月30日(2015.7.30)

【公表番号】特表2014-524105(P2014-524105A)

【公表日】平成26年9月18日(2014.9.18)

【年通号数】公開・登録公報2014-050

【出願番号】特願2014-516468(P2014-516468)

【国際特許分類】

F 2 1 V	5/00	(2015.01)
G 0 2 B	17/08	(2006.01)
F 2 1 S	2/00	(2006.01)
G 0 2 B	3/08	(2006.01)
G 0 2 B	13/18	(2006.01)
F 2 1 V	5/04	(2006.01)
F 2 1 V	5/08	(2006.01)
F 2 1 Y	101/02	(2006.01)

【F I】

F 2 1 V	5/00	5 1 0
G 0 2 B	17/08	Z
F 2 1 S	2/00	1 0 0
G 0 2 B	3/08	
G 0 2 B	13/18	
F 2 1 V	5/00	3 2 0
F 2 1 V	5/04	6 5 0
F 2 1 V	5/08	
F 2 1 Y	101:02	

【手続補正書】

【提出日】平成27年6月11日(2015.6.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

LE D凹部と、

前記LE D凹部と交差する光学軸と、

前記光学軸に垂直で、前記LE D凹部と交差する突出軸と、

前記光学軸の周りで部分的に回転される外側円錐壁を有する回転セクションであって、前記外側円錐壁が、前記LE D凹部の一部を囲み、且つ前記LE D凹部から発生して前記外側円錐壁に入射する光出力の大部分を内部で反射してコリメートし、

前記外側円錐壁が、その端部において前記光学軸の周りに第1のプロファイルを画定する第1及び第2の側面を形成する回転セクションと、

突出側面を含む前記外側円錐壁の前記端部から延び、且つ前記第1のプロファイルを形成する前記外側円錐壁の前記第1及び第2の側面の対応する部分にほぼ一致する、前記突出軸の任意の点に沿って見られるプロファイルをそれぞれ有する突出セクションと、を含む非対称光学レンズ。

【請求項2】

前記光学軸に沿った前記突出セクションの高さが、前記突出軸に沿った前記回転セクションからの距離が増加するにつれて減少するように、前記突出セクションが、上方へ角度を付けられて前記 L E D 凹部から離れる角度付き端部を含む、請求項 1 に記載の非対称光学レンズ。

【請求項 3】

前記光学軸に沿った前記突出セクションの前記高さが、前記突出軸に沿った前記回転セクションからの距離が増加するにつれて、直線的に減少する、請求項 2 に記載の非対称光学レンズ。

【請求項 4】

前記回転セクションが、光学処方を有する所定の非平面の上面を含む、請求項 1 に記載の非対称光学レンズ。

【請求項 5】

前記光学処方が、前記光学軸及び前記突出軸にほぼ垂直な少なくとも 1 つの溝を含む、請求項 4 に記載の非対称光学レンズ。

【請求項 6】

前記光学処方が、前記光学軸に対して鋭角で、且つ前記突出軸に対して鈍角で上方に角度を付けられた表面を含む、請求項 4 に記載の非対称光学レンズ。

【請求項 7】

前記光学処方が、前記光学軸と前記上方に角度を付けられた表面との間に置かれた少なくとも 1 つの溝を含む、請求項 6 に記載の非対称光学レンズ。